桃をテーマに地域循環SDGsに向けた産学連携の取り組み2023

～「もったいない」をなくし循環型社会へ～

共立女子大学　家政学部
建築・デザイン学科
デザインコース
グラフィック演習Ⅴ

●プロジェクトについて

建築・デザイン学部 デザインコース グラフィック分野４年次配当の「グラフィック演習 V」では、株式会社東和エンジニアリング（以下、「東和 E」と称する）およびグループ会社の東和 AG ワークス株式会社と協働し、農業・地域活性化を目指した取組みとして、山梨県笛吹市春日居地区の桃をテーマに、課題解決型授業を展開した。履修生 29 名は 6 チームに分かれ 4 つの課題に取り組んだ（1 チーム 4～5 名）。

<学生が取り組んだ４つの課題>

①もったいないモノから使いたくなるモノへ
②桃を好きになるグッズ
③桃の魅力・食べたくなるを発信
④新店舗オープンに合わせた限定企画

●プロセス

4/2 山梨県春日居へ現地調査。4/13 桃の魅力、加工品作り、大阪新店舗の役割について、東和 E からレクチャー。前期、学生はそれぞれ役割を担いチームに貢献しながら作品を制作。7/20 講評会を東和 E 本社内 “TOWAROW PARK”（千代田区東神田）で開催。

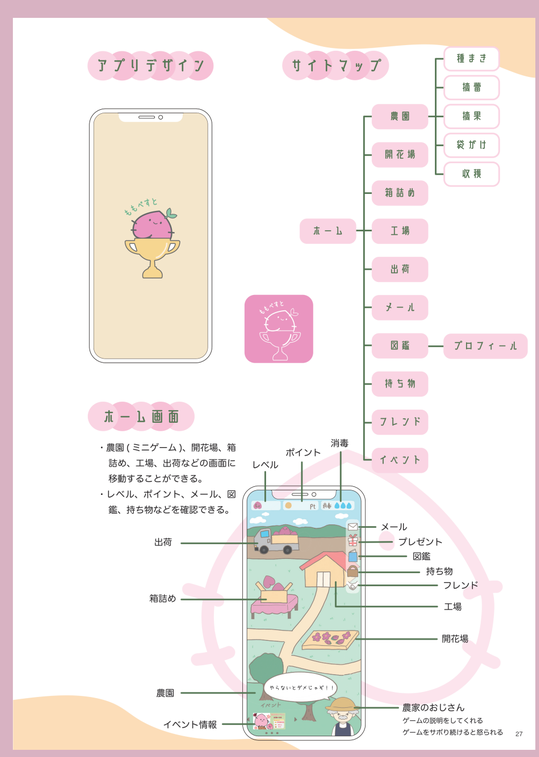
●結果

山梨県の廃校を利用した体験型宿泊施設の提案、桃の品種を楽しく学ぶカードゲームや山梨のパワースポット巡りのサービス開発、大阪新店舗での体験型イベント企画提案など、特色ある提案ができた。集団におけるコミュニケーション力そして “共立リーダーシップ” を発揮し、実践的なデザイン現場さながらの経験が出来た。

①もったいないモノから使いたくなるモノへ　「桃だけでない山梨の魅力が伝わっていないもったいなさ」と「廃校を活用できていないもったいなさ」に着目し、それらを掛け合わせた宿泊型体験施設『ももっと学園』を提案。実際の廃校をモデルにしており、廃棄される物を活用したイベントやグッズを展開。

②桃を好きになるグッズ　春日居の桃の知名度を上げ、その良さを知ってもらうことを目的とした、おもちゃプロジェクト「ももちゃばこ」を提案。春日居の桃の収穫までの流れや品種を楽しく知ることができるよう、カードゲームとランダムトイの 2 種類のおもちゃを考案した。

②桃を好きになるグッズ　「魔除け」という新たな視点から桃を捉え、パワースポット巡りを提案。桃 = 魔除け、桃 = 春日居の関係性を細かなところまで深掘りし、神様のキャラクターを用いたことで、グッズにもあたたかみやオリジナリティあり、春日居はもちろん県全体の活性化が見込まれる。



③桃の魅力・食べたくなるを発信　「学びながらベストな桃を収穫する」というコンセプトのスマートフォンアプリゲームを提案。桃を育てて収穫するまでのプロセスを、楽しく遊びながら学ぶことが出来る。桃を食べたいと思えるようなオンラインイベントや、実際に収穫体験が出来るイベント参加に繋げる。

④新店舗オープンに合わせた限定企画　大阪府中崎町の新店舗オープンに合わせ、新店舗２、３階部分を使用した「プロジェクションマッピング」や疑似的な「桃狩り」を提案。

④新店舗オープンに合わせた限定企画　“もったいない” をテーマにした架空の団体が主催する「第もも話 ～桃、大変身の巻～」と題した PR イベントを企画。

2023 年度 共立女子大学・短期大学「地域連携プロジェクト」

担当教員：田中裕子、水川史生　担当助手：八木こはる　デザインコース 4 年生　履修学生 29 名